

ブラジルヒンターランドの ブーム・タウン

家内縫製業の発展

三田千代子

レシッフェから北西に192km、車でおよそ3時間半、ペルナンブコ州内陸の小都市で毎週火曜と水曜日の2日間、廉価な日用衣料品を販売するフリーマーケットが開かれる。ブラジル北部、北東部、さらに遠くは南東部、中西部からも買い付けに来る業者で、町は異常な活気を呈する。西と北をパライバ州と接する人口3万8333人(1991年)のサンタクルスドカピバリベ市(Município de Santa Cruz do Capibaribe:以下サンタクルスと略)は、縫製業で賑わうブーム・タウンである(地図参照)。

小規模農と牧畜の典型的なブラジル北東部内陸の小都市であったサンタクルスは、縫製業によって1970年以後急速に発展した。今や市街地人口は、市の総人口の9割に上り、隣接する市をベッドタウンとして、あるいはサンタクルス市場向けの衣料生産地として巻き込み、これまでペルナンブコ内陸の諸都市が経験することのなかった新しい経済活動を発展させたのが、サンタクルスの町である。サンパウロから縫製用の材料を購入し、ブラジル北部、北東部の低所得層向けの日用衣料品を製造するサンタクルスは、縫製業に関連した多数の職種を生み出してきた。サンタクルスの住民の生活は、老若男女を問わずこのスランカ(南=sul起

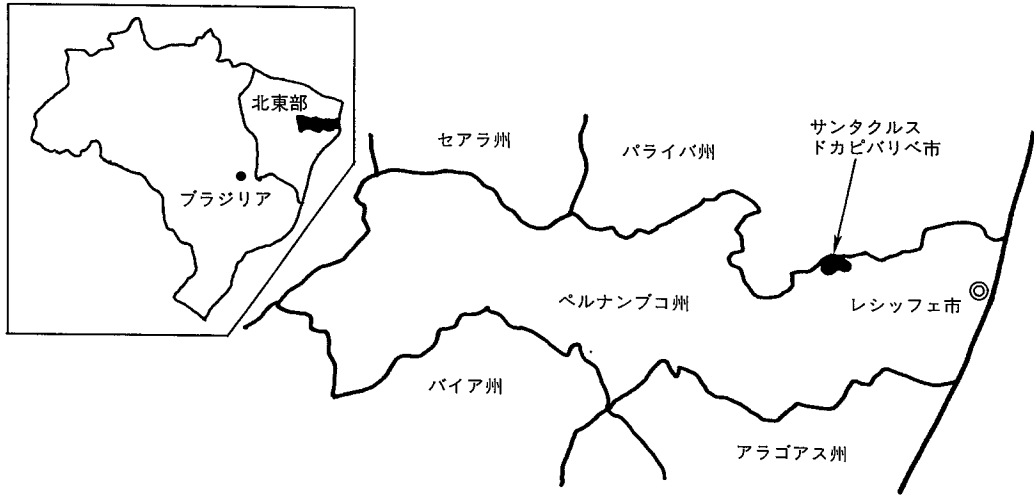
源のニット生地=helancaを意味する造語)と呼ばれる縫製業を軸に展開している。

1 サンタクルス市とスランカ産業

サンタクルス市は、海岸森林地帯(Zona da Mata)から乾燥地帯(Sertão)への移行地帯である半乾燥地帯(Agreste)に位置している。その植民の起源は、1750年にレシッフェのポルトガル人が転地療養のために、数人の奴隷とともに移り住んだことに遡るとされるが、市制が敷かれたのは今世紀のことである。1953年、東に境を接するタクアリチンガダノルテ市の一地区(distrito)からサンタクルス市が誕生した。

人口8000人に満たない北東部地方特有の小さな地方都市であったサンタクルスは、周辺の地方都市と同様、1960年代までその経済活動は限られていた。10%未満の小土地で商品作物の綿花と自給用のとうもろこしや豆を栽培する農業と、100%を超える大土地での牧畜とが、その主要な経済活動であった。降雨量が年間平均511mmにしかならず、岩の多い痩せ地では、農牧業の発展を期待することは難しかった。市の南を流れる主要な水源のカ

ペルナンブコ州とサンタクルスドカピバリベ市



ピバリベ川は、雨期にあたる3月、4月こそ水が流れるが、それ以外は水路が極端に細くなる。乾期にはわざわざ橋を渡らずに、川床を横断する住民の姿さえみられる。

サンタクルス市に縫製業が出現するまで、市街地で家内制手工業の小規模な靴製造が行なわれていた。しかし、合成皮革が普及し、相対的に高価な材料の調達が困難となると、1970以降、靴製造業は次第に姿を消していった。しかし、後に皮革縫製用のミシンはジーンズの縫製に利用され、縫製業の普及に役立つことになった。

このようにサンタクルスの経済基盤は伝統的に脆弱なものであり、靴製造に代わる新たな産業の必要に迫られていた。今日の縫製産業の萌芽的なものは、1940年代末から50年代初めにかけてみられた。州都のレシッフェに乳製品や炭、鶏などを売りに行った行商人が端布を持ち帰り、自家用の衣類や寝具を縫製していた。50年代末から60年代初めに、今日のスランカ産業の原形が出現した。行商人がレシッフェの織物工場から端布を秤売り

で購入し、これを希望する各家庭に信用貸しで販売した。各家庭はこの端布を利用して低価格の子供用の衣類や女性用下着を縫製し、フリーマーケットで販売するようになった。

軍事政権の積極的な経済開発政策が東北ブラジル開発庁(SUDENE)を通じて北東部で展開されると、サンタクルスの縫製業に発展のチャンスが到来した。1973年、ブラジル銀行の支店が開設され、設備機械や材料購入のための融資を受ける機会が拡大した。ブラジル銀行に続き、連邦貯蓄金庫やペルナンブコ州開発銀行といった官営の銀行が、さらにイタワー、ブラデスコ、バノルテといった民間の銀行も支店を開設した。これに伴い、サンパウロから直接材料のニット生地が買い付けられるようになった。トン単位の端布が調達され、縫製と流通に多数の人々が携わるようになった。79年、縫製品の販売に特化したフリーマーケット(Feirada Sulanca)が出現した。同年、サンタクルス市と国道BR104号線を繋ぐ道路が舗装されたことで、サンタクルスの流通はさらに刺激を受けた。80年

代に入りサンタクルスの縫製品は、外部からの買い付け業者、あるいは市内の仲買業者を通じて、周辺地域をはるかに越えて北部、北東部ブラジルに広く販売されるようになった。需要の拡大に伴い、一部の縫製業者は製造過程の工業化、分化を進め、ある程度の品質の商品を提供することができるようになった。なかには、北東部地方の大手スーパーやサンパウロ、パラナの市場に進出を果たした業者もある。

2 インフォーマルな零細企業が支えるスランカ産業

スランカ産業は基本的には、インフォーマルな零細企業によって支えられている。1991年のセンサスによれば、サンタクルスの世帯数は8700戸を超え、このうち85%の世帯が、縫製の零細業を営んでいるとされる。縫製業に従事している企業の94%は事業所として登記されておらず、課税の対象とはなっていない。

内陸部開発を目的とした州政府機関 FIAM の調査(1996年)によれば、サンタクルス市の織物工業および衣料縫製工業の数は23社で、被雇用者は84人を数えている。これに対し卸売業は6社、小売業は19社、それぞれの被雇用者数は135人、62人である。零細小企業を支援する政府機関 SEBRAE の行なったスランカ産業の調査結果(92年)をもとに、家族労働による事業所から被雇用者9人以上を抱える縫製工場を含めて数えても、事業所の数は150にしかない。しかも、事業所として登記をしている縫製業者は店舗販売を原則としており、フリーマーケットでは販売しない。

毎週2日間昼夜を徹して開催されるフリーマーケット4500の屋台に並べる商品を製造しているのは、サンタクルスの世帯の85%に及ぶという零細

企業である。通常、零細企業では会計や経営が合理的な形でなされてはおらず、家計との区別も明確ではない。製造方法、流通形態、取引額など、その詳細を捉えるのは難しい。

零細企業の6割以上は家族労働に依存している。残り4割弱は被雇用者がいる事業所であるが、雇用人1~3人の事業所が65%以上を占めている。要するに、家庭内で行なわれてるインフォーマルな零細事業が、この町のスランカ産業を支えているのである。この家内縫製業なくしては、昼夜2日間のフリーマーケットに、ブラジル各地からバスを連ねて買い付けにやってくる仲買業者の需要に応ずることはできない。



スランカのフリーマーケット。手前の地面で商品を開けている女性は、市役所に道路使用料を払っていない。いわば、インフォーマル・セクターの中のインフォーマルセクターである
(筆者撮影)

各家庭で1~3台のミシンを使って営む零細企業を支えているのは、女性の労働力である。母親と年長の娘が縫製業に従事する。母親の姉妹が農村に残っていれば町に呼び寄せ、一緒にミシンを踏む。食事時間を除き終日縫製作業に従事する。1~2人の縫子を雇っている家庭もある。一部の登記済の縫製業者を除き、事業所の8割以上が縫



縫製場の光景。仕事場の奥で10歳の男児が糸の仕末をしている
(筆者撮影)

子に支払う賃金は、最低賃金(約1万円)である。家事や育児を手伝うのは、年少の娘や時には失業中の父親である。10歳にもなると男女を問わず、ミシンを踏めるようになる。フリーマーケットの立つ日には学校を休み、自分が縫製したドレスを1レアル(約100円)、2レアルで売り歩く女兒の姿がみられる。それ以下の子どもは、ボタン付けや糸の始末など、縫製の補助的な仕事を受け負う。一家中が何らかの形で縫製業に係わっている。

現金取引を原則とするフリーマーケットでは、貨幣価値の変動の激しかった1980年代から90年代初めが取引の活発な時期であったと、零細業者の多くは述懐している。フリーマーケットの開かれる目抜き通りで2人の縫子を雇い、10歳と14歳の息子に縫製を手伝わせて女兒用衣類を製造し、フリーマーケットでの直接販売と手数料10%で仲買人による販売も行なっている女性事業主は、「レアル・プランになってから販売量がすっかり減ってしまった。インフレが激しい頃は、8人の縫子を使って需要に応じていたのだが……」と嘆いていた。一方、同じ縫製業でも企業としてエスタブリッシュされ、従業員35人を雇用して市を代表する

縫製工場の一つに成長させた女性経営者は、「確かにインフレの時代は、大量に売れたが、同時に多くの不渡り小切手が手元に残った。レアル・プランになって流通量は減少したが、着実に現金が入ってくるようになり、ずっと商売がしやすくなった」と、話していた。低価格、低品質の大衆向けの衣料を製造してきたインフォーマル企業は、レアル・プランのもとでインフレが収束した現在、従来どおりの商品の製造を見直す必要に迫られている。

3 増加する市街地人口

スランカ産業が、最も明白な影響を与えたのは人口変動である。スランカ産業の発展に伴い、サンタクルス市の人口は1960年以降、増加の一途をたどった(第1表参照)。特に70年以降の人口の増加率は急激で、60~70年の年平均4.4%増に対し、70年は6%を超え、80~91年には5.5%を超えている。ペルナンブコ州全体、北東部地方、そしてブラジル全体の増加率と比較すると、いずれも60年代をピークに人口の増加率は減少しており、特に、80~91年は増加率が2%を下回ったのに対し、サタクルスはこれら数値の3~4倍の人口増加率を示したのである。これは、サンタクルス市街地人口が急速に増大した結果である。

1960年代、ブラジル、北東部、ペルナンブコ州の都市人口と農村人口の割合をみると、いずれも農村人口が都市人口を上回っていた(第2表参照)。ところがサンタクルス市は60年代すでに、都市人口が農村人口を上回り、総人口の67%を超えていた。91年のセンサスでは、市の人口の10人のうち9人は市街地の居住者であるという結果となった。

サンタクルスの市街地に流入してきた人口の多

第1表 人口増加率

(%)

地 域	年	増 加 率		
		1960/70	1970/80	1980/91
ブラジル全国		2.89	2.48	1.93
北東部		2.40	2.16	1.83
ペルナンブコ州		2.26	1.74	1.35
サンタクルスドカピ バリベ市		4.4	6.1	5.56

(出所) IBGE, *Tedências demográficas*, Rio de Janeiro, 1996, p.13; Campello, G. M. da Costa, *A atividade de confecções e a produção do espaço em Santa Cruz do Capibaribe*, Recife: UFPE, 1983, p.45; CONDEPE, *Perfil sócio-demográfico de Pernambuco*, Recife, 1993, pp. 5-30.

第2表 都市人口比の推移

(%)

地 域	年	都 市 人 口 比			
		1960	1970	1980	1991
ブラジル全国		44.67	55.92	67.59	75.59
北東部		33.89	41.81	50.46	60.65
ペルナンブコ州		44.90	54.40	61.60	70.90
サンタクルスドカピ バリベ市		67.97	75.46	87.30	91.40

(出所) IBGE, *Tedências demográficas*, Rio de Janeiro, 1996, p. 13; Campello, G. M. da Costa, *A atividade de confecções e a produção do espaço em Santa Cruz do Capibaribe*, Recife, UFPE, 1983, p.46; CONDEPE, *Perfil sócio-democrático de Pernambuco*, Recife, 1993, p. 13.

第3表 サンタクルスドカピバリベ人口増加率の変化 (1960~91年)

(%)

市 街 地			農 村 地 区			平 均		
1960/70	1970/80	1980/91	1960/70	1970/80	1980/91	1960/70	1970/80	1980/91
5.5	7.7	6.01	1.7	-0.7	1.85	4.4	6.1	5.56

(出所) Campello, G. M. da Costa, *A atividade de confecções e a produção do espaço em Santa Catarina do Capibaribe*, Recife, UFPE, 1983, p.46; CONDEPE, *Perfil Sócio-Democrático de Pernambuco*, Recife, 1993, pp. 5-30.

くは、農村出身である。1970~80年の市街地人口の年平均増加率は、7.7%と高率を示したのに対し、農村部の人口は-0.7%と減少している(第3表参照)。80年代に入っても、サンタクルスの農村人口の増加率は2%(80~91年)に止まったのに対し、市街地人口は6%を超える増加率を示した。70年以降、農村から継続して人口が流出してきたことを物語っている。市街地に流入してくる人口は、市内からだけではなく、近隣の市の農村部からも流入してきた。隣のパライバ州や、時には北部のアマゾナス州の出身者もいる。

さらに、サンタクルス市の人口変動には、特定

の年齢と性別との繋がりがみられる。年齢別人口構成(第4表参照)をみると、20歳未満の人口が総人口の48%を超え、30歳未満の人口は67%に達している。しかも、人口の男女比はブラジル全体と比較すると、サンタクルス市の女性人口の割合が上回っている。つまり、サンタクルスの総人口に占める男女の割合は、それぞれ47.6%、52.4%であるのに対し、ブラジルのそれは49.5%対50.6%である。ペルナンブコ州の性別人口割合と比較しても、サンタクルス市の女性人口の割合が1%弱上回っている。このことは、縫製という職種が女子労働力を吸収していることを物語っている。し

第4表 年齢、性別人口構成 (1991年)

ブラジル				
年齢	合計(人)	累計(%)	男(%)	女(%)
0～4	16,521,114	11.3	50.7	49.3
5～9	17,420,159	23.2	50.7	49.3
10～14	17,047,159	34.8	50.4	49.3
15～19	15,017,472	45.0	49.7	50.3
20～24	13,564,878	54.2	49.5	50.5
25～29	12,638,078	62.8	48.9	51.1
30～34	11,063,493	70.3	48.9	51.1
35～39	9,463,763	76.7	48.6	51.4
40～44	7,834,714	82.0	49.3	50.7
45～49	6,124,688	86.2	48.9	51.1
50～54	5,165,128	89.7	48.9	52.0
55～59	4,242,124	92.6	47.6	52.4
60～64	3,636,858	95.1	47.2	52.8
65～69	2,776,060	97.0	47.1	52.9
70～74	1,889,918	98.3	46.2	53.8
75～79	1,290,218	99.2	44.6	55.4
80～	1,129,651	100.0	40.7	59.3
合計	146,825,475		49.4	50.6

サンタクルスドカピバリベ市				
年齢	合計(人)	累計(%)	男(%)	女(%)
0～4	4,611	12.0	49.7	50.3
5～9	4,754	24.4	50.2	49.8
10～14	4,427	35.9	48.7	51.3
15～19	4,729	48.2	45.8	54.2
20～24	3,936	58.5	45.7	54.3
25～29	3,275	67.0	46.6	53.4
30～34	2,524	73.0	45.8	54.2
35～39	2,056	79.0	45.3	54.7
40～44	1,827	83.8	48.9	51.1
45～49	1,451	87.6	46.5	53.5
50～54	1,207	90.8	48.2	51.8
55～59	851	93.0	44.4	55.6
60～64	819	95.1	47.7	52.3
65～69	664	96.8	51.7	48.3
70～74	515	98.2	49.9	50.1
75～79	378	99.2	43.4	56.6
80～	308	100.0	49.0	51.0
合計	38,332		47.6	52.4

(出所) IBGE, *Censo demográfico*, 1991.

ペルナンブコ州				
年齢	合計(人)	累計(%)	男(%)	女(%)
0～4	849,514	11.9	50.4	49.6
5～9	891,710	24.4	50.5	49.5
10～14	888,041	36.8	50.1	49.9
15～19	805,267	48.1	49.4	50.6
20～24	653,225	57.3	48.0	52.0
25～29	563,026	65.2	47.3	52.7
30～34	461,572	71.7	47.1	52.9
35～39	394,814	77.2	45.9	54.1
40～44	345,716	82.1	46.6	53.4
45～49	276,758	86.0	46.3	53.7
50～54	248,037	89.5	45.8	54.2
55～59	191,107	92.2	44.7	55.3
60～64	174,573	94.6	45.3	54.7
65～69	145,688	96.6	46.7	53.3
70～74	104,982	98.1	46.7	53.3
75～79	70,615	99.1	46.2	53.8
80～	63,210	100.0	41.7	58.3
合計	7,127,855		48.3	51.7

かも年齢と性別人口を重ね合わせて考えてみると、サンタクルスの人口構成に縫製産業が与えた影響をより明確にみてとることができる。15～19歳の人口は男性2167人、女性2562人を数え、女性の数が男性より18%以上も上回っている。20～24歳人口でも同様の傾向がみられ、女性人口が男性人口の19%近く上回っている。

先述したサンタクルス我代表する縫製工場で働く女子工員約30人は、まさにこれらサンタクルスの労働人口の諸特徴を示している。インタビューに応じた2人の女子工員の年齢は、それぞれ17歳と28歳で、いずれもパライバ州出身であった。前者は、隣接する市に現在母親と住み、後者の女性は両親を故郷に残し、サンタクルス市郊外に兄と友人と住んでいる。つまり、サンタクルスのスランカ産業は15～30歳未満の女性によって支えられ

ており、同時にサンタクルスは、ペルナンブコ州内陸で数少ない労働市場を提供している町といえよう。しかもマチズモの伝統の強い北東部の内陸で女性が主要な経済活動の担い手になっている現実には、男性に心理的な葛藤を与えることになる。家庭内暴力や別居、離婚といった社会問題の増加につながらないとも限らない。

4 スランカ産業を支える女性の生活

—むすびにかえて—

スランカ産業の担い手である若い女性達の行動範囲は恐ろしく狭い。毎日職場と住居を自転車か徒歩で往復するだけで、週末は、家事をするか近所の友人と散歩したり、せいぜいプールに行く程度である。家で縫製に従事している場合は、通勤のために外出することすらない。バスで1時間ほどのペルナンブコ第2の都会カルアルーにさえ行くことはめったにない。昨年、眼鏡を買いに行ったとか、テレビを買いに行ったといった程度である。サンタクルスの若い女性が作る水着やTシャツが、カルアルーの商店を飾っているのとは、対象的である。ましてや州都であるレシッフェに行ったことがあるものは、本当に限られた家庭のものでしかない。最低賃金の2倍で縫子として働く女子工員の中に、レシッフェを訪れたことのあるものがいたが、それは急病で入院した時であった。サンタクルス以外の世界を知るのは、テレビを通じてである。

4年に一度行なわれる市長および市議会議員選

挙は、まさに住民にとっては、恰好の娯楽である。今年はこの地方選挙の行なわれる4年目にあたり、サンタクルス市を訪問した9月は選挙戦たけなわであった。週末の娯楽について尋ねたところ、インフォーマントは「政治祭り」(a festa política)と応えた。「ここでは、いかに住民を楽しませる選挙戦をするかで勝敗がきまるんですよ」と現地スタッフが説明してくれたことが、このブラジルの北東部の内陸の町の単調な生活を物語っているように思えた。

市役所で製図の仕事に従事している若い女性は、「ここには文化がない。何とかしてここから出たい」と、事務所の一室で語った思い詰めた表情が印象的であった。往来では衣料品を運ぶ車やロバが行き交い、フリーマーケットの賑わいが窓越しに伝わってきた。次世代を担う若者をこの地にかにひきつけるか、サンタクルス市が北東部内陸の産業都市として成長するための今後の課題であろう。

〔参考文献〕

- SEBRAE/PE, *Diagnóstico de setor de confecções*, 1992.
Campello, Glauce Maria da Costa, *A atividade de confecções e a produção do espaço em Santa Cruz do Capibaribe*, Recife: Universidade Federal de Pernambuco, 1983.
FIAM, *Perfil municipal-Santa Cruz do Capibaribe*, 1996.
IBGE, *Tendências demográficas*, Rio de Janeiro, 1996.

(みた・ちよこ/上智大学外国語学部助教授)